

NEDO における制度評価・事業評価について

1. NEDO における制度評価・事業評価の位置付けについて

NEDO は全ての事業について評価を実施することを定め、不断の業務改善に資するべく評価を実施しています。

評価は、事業の実施時期毎に事前評価、中間評価、事後評価及び追跡評価が行われます。

NEDO では研究開発マネジメントサイクル（図 1）の一翼を担うものとして制度評価・事業評価を位置付け、評価結果を被評価事業等の資源配分、事業計画等に適切に反映させることにより、事業の加速化、縮小、中止、見直し等を的確に実施し、技術開発内容やマネジメント等の改善、見直しを的確に行っていきます。

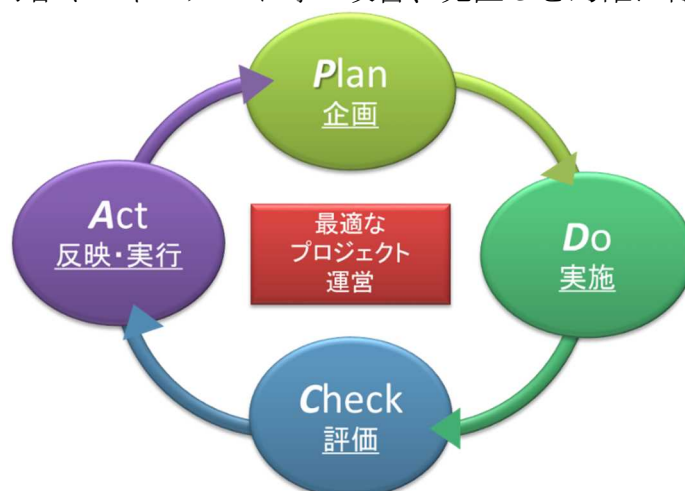


図 1 研究開発マネジメントサイクル概念図

2. 評価の目的

NEDO では、次の 3 つの目的のために評価を実施しています。

- (1) 業務の高度化等の自己改革を促進する。
- (2) 社会に対する説明責任を履行するとともに、経済・社会ニーズを取り込む。
- (3) 評価結果を資源配分に反映させ、資源の重点化及び業務の効率化を促進する。

3. 評価の共通原則

評価の実施に当たっては、次の 5 つの共通原則に従って行います。

- (1) 評価の透明性を確保するため、評価結果のみならず評価方法及び評価結果の反映状況を可能な限り被評価者及び社会に公表する。
- (2) 評価の明示性を確保するため、可能な限り被評価者と評価者の討議を奨励する。
- (3) 評価の実効性を確保するため、資源配分及び自己改革に反映しやすい評価方

法を採用する。

(4) 評価の中立性を確保するため、外部評価又は第三者評価のいずれかによって行う。

(5) 評価の効率性を確保するため、研究開発等の必要な書類の整備及び不必要な評価作業の重複の排除等に務める。

4. 制度評価・事業評価の実施体制

制度評価・事業評価については、図 2 に示す実施体制で評価を実施しています。

- ① 研究評価を統括する研究評価委員会を NEDO 内に設置。
- ② 評価対象事業毎に当該技術の外部の専門家、有識者等を評価委員とした研究評価分科会を研究評価委員会の下に設置。
- ③ 同分科会にて評価対象事業の評価を行い、評価報告書が確定。
- ④ 研究評価委員会を経て理事長に報告。

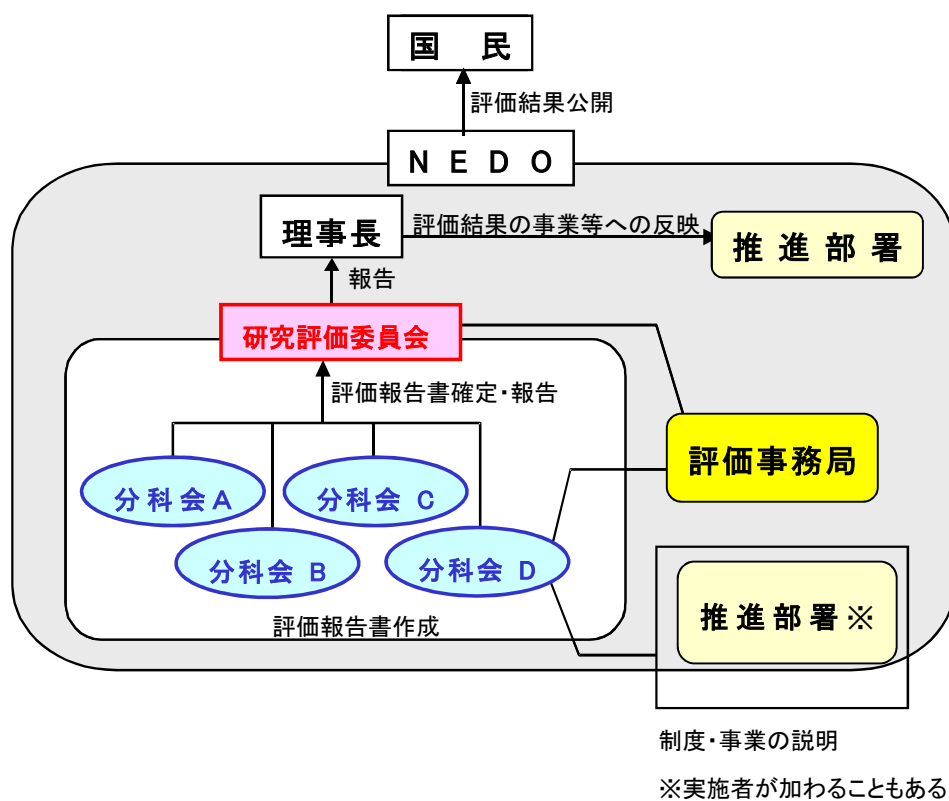


図 2 評価の実施体制

5. 分科会委員

分科会は、対象技術の専門家、その他の有識者から構成する。

「クリーンコール技術開発／①低品位炭利用促進事業」 の事後評価に係る評価項目・評価基準

1. 必要性（位置付け、目的、目標等の妥当性）
 - ・ 政策における「事業」の位置付けは明らかであったか。
 - ・ 政策、市場動向等の観点から「事業」の必要性は明らかであったか。
 - ・ NEDOが「事業」を実施する必要性は明らかであったか。
 - ・ 「事業」の目的は妥当であったか。
 - ・ 「事業」の目標は妥当であったか。

2. 効率性（実施計画、実施体制、実施方法、費用対効果等の妥当性）
 - ・ 「事業」の実施計画は妥当であったか。
 - ・ 「事業」の実施体制は妥当であったか。
 - ・ 「事業」の実施方法は妥当かつ効率的であったか。
※ 案件ごとの NEDO の運営・管理は妥当であったかの視点を含む。
 - ・ 「事業」によりもたらされる効果（将来の予測を含む）は、投じた予算との比較において十分と期待できるか。
 - ・ 情勢変化に対応して「事業」の実施計画、実施体制等を見直している場合、見直しによって改善したか。

3. 有効性（目標達成度、社会・経済への貢献度）
 - ・ 最終目標を達成したか。
 - ・ 社会・経済への波及効果が期待できる場合、積極的に評価する。

評点法の実施について（事後）

1. 評点法の目的、利用

- 評価結果を分かりやすく提示すること
- 評価報告書を取りまとめる際の議論の参考
- 評価報告書を補足する資料

2. 評点方法

(1) 評点の付け方と判定基準

- 各評価項目について4段階（A、B、C、D）で評価する。
- 判定基準は以下の通り。考慮事項を踏まえて、各判定基準に従って評点付けを行う。

判定基準

1. 必要性	
・非常に重要	→A
・重要	→B
・概ね妥当	→C
・妥当性がない、又は失われた	→D
2. 効率性	
・非常によい	→A
・よい	→B
・概ね適切	→C
・適切とはいえない	→D
3. 有効性	
・非常によい	→A
・よい	→B
・概ね妥当	→C
・妥当とはいえない	→D

(2) 評点法実施のタイミング

- 分科会において、各委員へ評価付けを依頼する。
- 評価報告書（案）を確定する前に評点結果を委員に提示し、評点の確認及び修正を依頼する。
- 評価報告書（案）の確定に合わせて、評点の確定を行う。

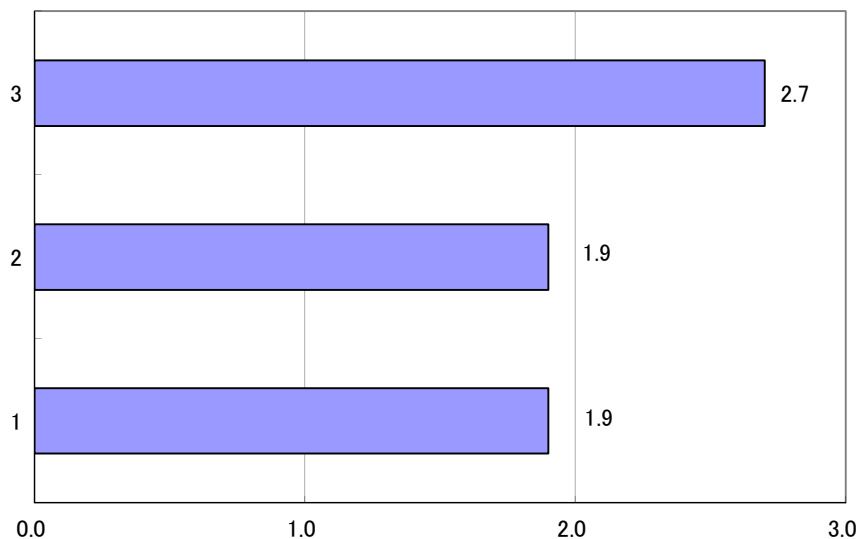
(3) 評点結果の開示

- 評点法による評点結果を開示するが、個々の委員記入の結果（素点）については、「参考」として公表（匿名）する。
- 評点法による評価結果の開示については、評点のみが一人歩きすること

のないように慎重に対応する。

- 具体的には、図表による結果の掲示等、評価の全体的な傾向がわかるような形式をとることとする。

評点の表示例



評価項目	平均値	素点 (注)							
1. 必要性	2.7	A	A	A	A	A	A	A	C
2. 効率性	1.9	B	B	B	B	B	B	B	C
3. 有効性	1.9	A	B	B	B	B	B	C	C

(注) 素点：各委員の評価。平均値は A=3、B=2、C=1、D=0 として事務局が数値に換算し算出。

「クリーンコール技術開発／①低品位炭利用促進事業」（事後評価）
評価コメント及び評点票

委員名

コメントして頂く際の留意点

1. 評価項目に対して、説明・配布資料等（事業原簿、基本計画、パワーポイント資料）に基づき、評価コメントの作成及び参考点付けをお願い致します。
2. 評価コメント作成にあたりましては、単に「妥当である。評価できる。」という表現だけではなく、可能な限り、妥当である理由、評価できる理由などについて、具体的な記述をお願い致します。
3. 評価コメントは評価報告書に掲載され、公開されることとなりますが、「知的財産保護のため非公開とすべき事項」、「自主的企業活動に影響を及ぼすおそれのある事項」、「個人情報に関すること」、「差別的表現」、「事実と相異なる意見」等、その影響を考慮して一定の配慮が必要な場合は、コメントの趣旨に反することのない範囲で、評価事務局からコメントの変更等をお願いする場合があります。
4. 評点付けにあたりましては、各評価項目について4段階（A、B、C、D）で評価をお願い致します。
5. 後日、メールにて本文ファイル（Word 形式）を送付致します。本電子ファイルにご記入頂き、下記の担当宛に電子メール、或いはFAXにてご返送頂けますようお願い致します。

記

期 限：平成30年10月24日（水）まで

送付先：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
評価部 植山 正基 宛

以上

「クリーンコール技術開発／①低品位炭利用促進事業」（事後評価）
に対する評価コメント

***注意：「枠」の大きさにとらわれずコメントをお願いいたします。
（“3行以内”ということではございません。以下コメントも全て同様です。）**

1. 必要性

- ・政策における「事業」の位置付けは明らかであったか。
- ・政策、市場動向等の観点から「事業」の必要性は明らかであったか。
- ・NEDOが「事業」を実施する必要性は明らかであったか。
- ・「事業」の目的は妥当であったか。
- ・「事業」の目標は妥当であったか。

【評価委員コメント欄】

<肯定的意見>

<改善すべき点>

2. 効率性

- ・「事業」の実実施計画は妥当であったか。
- ・「事業」の実実施体制は妥当であったか。
- ・「事業」の実実施方法は妥当かつ効率的であったか。
※案件ごとのNEDOの運営・管理は妥当であったかの視点を含む。
- ・「事業」によりもたらされる効果（将来の予測を含む）は、投じた予算との比較において十分と期待できるか。
- ・情勢変化に対応して「事業」の実実施計画、実施体制等を見直している場合、見直しによって改善したか。

【評価委員コメント欄】

<肯定的意見>

<改善すべき点>

3. 有効性

- ・最終目標を達成したか。
- ・社会・経済への波及効果が期待できる場合、積極的に評価する。

【評価委員コメント欄】

<肯定的意見>

<改善すべき点>

4. 総合評価／今後への提言

【評価委員コメント欄】

<総合評価>

<今後への提言>

「クリーンコール技術開発／①低品位炭利用促進事業」(事後評価)

に対する評点票

【記入方法、結果取扱いについて】

- ・各項目について、A、B、C、Dのいずれかを記入してください。
- ・記入の結果は、「参考」として公表(匿名)いたします。

評価項目	評点
事業の必要性について 非常に重要 →A 重要 →B 概ね妥当 →C 妥当がない又は失われた →D	[A B C D]
事業の効率性について 非常によい →A よい →B 概ね適切 →C 適切とはいえない →D	[A B C D]
事業の有効性について 非常によい →A よい →B 概ね妥当 →C 妥当とはいえない →D	[A B C D]

「クリーンコール技術開発／①低品位炭利用促進事業」 (事後評価)
評価報告書の構成について

1. 評価書の目次

下記目次の第1章を委員会でまとめる。

目次

はじめに
審議経過
分科会委員名簿
第1章 評価
1. 必要性
2. 効率性
3. 有効性
4. 総合評価／今後への提言
5. 評点結果
第2章 評価対象事業に係る資料
1. 事業原簿
2. 分科会公開資料
参考資料 1 分科会議事録
参考資料 2 評価の実施方法

第1章のまとめ方

評価項目毎に以下のように各委員のコメントを取りまとめる。

第1章の取りまとめ方の例（案）

例：1. 必要性

委員の意見を取りまとめた作成した文書。

主な具体的指摘事項

（肯定的意見）

- ・
- ・

（改善すべき点）

- ・
- ・